平成23年6月1日

DI ニュース

薬剤部 医薬品情報管理係

新規採用医薬品通知

（薬品名）	**メトグルコ 錠 250mg** 劇
（英名） （規格・含有量） （一般名） （メーカー名） 【薬価収載日】 【薬価】 【薬効コード】 【薬効分類名】	METGLUCO 1 錠中メトホルミン塩酸塩 250mg を含有 メトホルミン塩酸塩 大日本住友製薬 2010 年 4 月 9.90 円/1錠 873962 ビグアナイド系経口血糖降下剤
効能・効果	2 型糖尿病 ただし、下記のいずれかの治療で十分な効果が得られない場合に限る。 (1)食事療法・運動療法のみ (2)食事療法・運動療法に加えてスルホニルウレア剤を使用
用法・用量	通常、成人にはメトホルミン塩酸塩として 1 日 500mg より開始し、1 日 2～3 回に分割して食直前又は食後に経口投与する。維持量は効果を観察しながら決めるが、通常 1 日 750～1,500mg とする。なお、患者の状態により適宜増減するが、1 日最高投与量は 2,250mg までとする。
禁忌	①次に示す状態の患者 (1) 乳酸アシドーシスの既往 (2) 中等度以上の腎機能障害 (3)透析患者（腹膜透析を含む） (4)重度の肝機能障害 (5) ショック、心不全、心筋梗塞、肺塞栓等心血管系、肺機能に高度の障害のある患者及びその他の低酸素血症を伴いやすい状態 (6) 過度のアルコール摂取者 (7) 脱水症、脱水状態が懸念される下痢、嘔吐等の胃腸障害のある患者 ②重症ケトーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1 型糖尿病の患者 ③重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者 ④栄養不良状態、飢餓状態、衰弱状態、脳下垂体機能不全又は副腎機能不全の患者 ⑤妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 ⑥本剤の成分又はビグアナイド系薬剤に対し過敏症の既往歴のある患者
相互作用	**本剤副作用増強** ①ヨード造影剤 ②腎毒性の強い抗生物質（ゲンタマイシン等） **本剤作用増強** ①インスリン製剤 ②経口血糖降下剤 ③たん白同化ホルモン剤（メスタノロン等）④グアネチジン ⑤サリチル酸剤（アスピリン等） ⑥β 遮断剤（プロプラノロール等） ⑦モノアミン酸化酵素阻害剤 **本剤作用減弱** ①アドレナリン ②副腎皮質ホルモン ③甲状腺ホルモン ④卵胞ホルモン ⑤利尿剤 ⑥ピラジナミド ⑦イソニアジド ⑧ニコチン酸 ⑨フェノチアジン系薬剤 **本剤または、他剤作用増強** 有機カチオン輸送系を介して腎排泄される薬剤（シメチジン）
副作用	**重大な副作用** 乳酸アシドーシス 低血糖 肝機能障害、黄疸 **その他** 下痢、悪心 など

（薬品名）	**バイエッタ皮下注　5μgペン300／10μgペン300**　　劇
（英名） （規格・含有量） （一般名） （メーカー名） 【薬価収載日】 【薬価】 【薬効コード】 【薬効分類名】	Byetta 5μg、10μg共に1キット（2mL）中にエキセナチド　300μgを含有 エキセナチド注射剤 日本イーライリリー 2010年12月 9,661.00円/1筒（5μg・10μg） 87 2499 2型糖尿病治療剤
効能・効果	2型糖尿病 ただし、食事療法・運動療法に加えてスルホニルウレア剤（ビグアナイド系薬剤又はチアゾリジン系薬剤との併用を含む）を使用しても十分な効果が得られない場合に限る。
用法・用量	通常、成人には、エキセナチドとして、1回5μgを1日2回朝夕食前に皮下注射する。投与開始から1ヵ月以上の経過観察後、患者の状態に応じて1回10μg、1日2回投与に増量できる。
禁忌	①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1型糖尿病の患者 ③重症感染症、手術等の緊急の場合 ④透析患者を含む重度腎機能障害のある患者
相互作用	**本剤または、他剤作用増強**　①糖尿病用薬（ビグアナイド系薬剤　スルホニルウレア剤　スルホニルアミド系薬剤　速効型インスリン分泌促進剤　α-グルコシダーゼ阻害剤　チアゾリジン系薬剤）　②血糖降下作用が増強される薬剤（β-遮断剤　サリチル酸誘導体　モノアミン酸化酵素（MAO）阻害剤等） **本剤作用増強**　血糖降下作用が減弱される薬剤（アドレナリン　副腎皮質ステロイド　甲状腺ホルモン等） **吸収遅延により効果が減弱される薬剤**　抗生物質　経口避妊薬等 **吸収遅延を起こす薬剤**　①クマリン系薬剤（ワルファリンカリウム）　②HMG-CoA還元酵素阻害剤
副作用	**重大な副作用**　低血糖、腎不全、急性膵炎、アナフィラキシー反応、血管浮腫 **その他**　悪心、便秘、食欲減退、嘔吐、腹部不快感、腹部膨満、下痢、血糖値低下など

（薬品名）	**ブロナック点眼液0.1%**
（英名） （規格・含有量） （一般名） （メーカー名） 【薬価収載日】 【薬価】 【薬効コード】 【薬効分類名】	BRONUCK OPHTHALMIC SOLUTION 0.1% 1mL中、ブロムフェナクナトリウム水和物　1mgを含有 ブロムフェナクナトリウム水和物点眼液 千寿製薬 2008年7月 121.70円/1mL 871319 非ステロイド性抗炎症点眼剤
効能・効果	外眼部及び前眼部の炎症性疾患の対症療法〔眼瞼炎、結膜炎、強膜炎(上強膜炎を含む)、術後炎症〕
用法・用量	通常、1回1～2滴、1日2回点眼する。
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
相互作用	―
副作用	**重大な副作用**　角膜潰瘍、角膜穿孔 **その他**　角膜糜爛、結膜炎、眼瞼炎、刺激感、眼痛[一過性]、点状表層角膜炎、そう痒感 など

（薬品名）	**ワンデュロパッチ 0.84mg/1.7mg/5mg** 劇
（英名） （規格・含有量） （一般名） （メーカー名） 【薬価収載日】 【薬価】 【薬効コード】 【薬効分類名】	OneDuro Patch ワンデュロパッチ 0.84mg/枚　1 枚中、フェンタニル 0.84mg を含有 ワンデュロパッチ 1.7mg/枚　1 枚中、フェンタニル 1.7mg を含有 ワンデュロパッチ 5mg/枚　1 枚中、フェンタニル 5mg を含有 フェンタニル経皮吸収型製剤 ヤンセンファーマ 2010 年 12 月 564.60 円/0.84mg（1 枚）　1,063.60 円/1.7mg（1 枚）　2,803.30 円/5mg（1 枚） 878219 経皮吸収型　持続性癌疼痛治療剤
効能・効果	非オピオイド鎮痛剤及び弱オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記疾患における鎮痛（ただし、他のオピオイド鎮痛剤から切り替えて使用する場合に限る。） 中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛
用法・用量	本剤は、オピオイド鎮痛剤から切り替えて使用する。 通常、成人に対し胸部、腹部、上腕部、大腿部等に貼付し、1 日（約 24 時間）毎に貼り替えて使用する。 初回貼付用量は本剤投与前に使用していたオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して、0.84mg、1.7mg、3.4mg、5mg のいずれかの用量を選択する。 その後の貼付用量は患者の症状や状態により適宜増減する。
禁忌	本剤の成分に対し過敏症のある患者
相互作用	**本剤他剤作用増強**　①中枢神経抑制剤（フェノチアジン系薬剤、ベンゾジアゼピン系薬剤、バルビツール酸系薬剤等）、②吸入麻酔剤　③モノアミン酸化酵素阻害剤　④三環系抗うつ剤　⑤骨格筋弛緩剤　⑥鎮静性抗ヒスタミン剤　⑦アルコール　⑧オピオイド系薬剤 **本剤副作用増強**　リトナビル、イトラコナゾール、アミオダロン、クラリスロマイシン、ジルチアゼム、フルボキサミン
副作用	**重大な副作用**　依存性、 呼吸抑制　、頻度不明　、意識障害、 ショック、アナフィラキシー様症状　、痙攣 **その他**　傾眠・眠気、貼付部位のそう痒感、貼付部位の紅斑便秘、悪心、嘔吐、下痢　など
備考	**麻薬**

削除医薬品通知

●<u>6 月 1 日より</u>

ムコダイン錠 250mg	規格変更のため削除
インドメロール点眼液 0.5%　5mL	削除
ジェノトロピン TC 注用 12mg	在庫消尽後削除
グリコラン錠 250mg	削除
ヒューマリン N 注キット	削除
オステン錠 200mg	削除
アズロゲン	販売停止のため削除
ベシケア錠 5mg	剤形変更のため削除

適応追加通知

グラクティブ錠　25mg ジャヌビア錠　50mg	**食事療法、運動療法に加えて α-グルコシダーゼ阻害剤を使用**
メインテート錠　2.5mg 5mg	次の状態で、アンジオテンシン変換酵素阻害薬又はアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬、利尿薬、ジギタリス製剤等の基礎治療を受けている患者 **虚血性心疾患又は拡張型心筋症に基づく慢性心不全** 通常、成人にはビソプロロールフマル酸塩として、1 日 1 回 0.625mg 経口投与から開始する。1 日 1 回 0.625mg の用量で 2 週間以上経口投与し、忍容性がある場合には、1 日 1 回 1.25mg に増量する。その後忍容性がある場合には、4 週間以上の間隔で忍容性をみながら段階的に増量し、忍容性がない場合は減量する。用量の増減は 1 回投与量を 0.625、1.25、2.5、3.75 又は 5mg として必ず段階的に行い、いずれの用量においても、1 日 1 回経口投与とする。通常、維持量として 1 日 1 回 1.25～5mg を経口投与する。なお、年齢、症状により、開始用量は更に低用量に、増量幅は更に小さくしてもよい。また、患者の本剤に対する反応性により、維持量は適宜増減するが、最高投与量は 1 日 1 回 5mg を超えないこと。
グラニセトロン静注液　3mg/3mL	**造血幹細胞移植前処置時の放射線全身照射(TBI)に伴う消化器症状(悪心、嘔吐)** 通常、成人にはグラニセトロンとして1回 40μg/kg を点滴静注する。なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし、1日2回投与までとする。
点滴静注用ホスカビル 24mg/mL	**造血幹細胞移植患者におけるサイトメガロウイルス血症及びサイトメガロウイルス感染症** 初期療法：通常、ホスカルネットナトリウム水和物として 1 回体重 1kg あたり 60mg を、1 時間以上かけて 12 時間ごとに 1 日 2 回点滴静注する。 初期療法は 1～2 週間以上行う。 維持療法：通常、ホスカルネットナトリウム水和物として 1 回体重 1kg あたり 90～120mg を 2 時間以上かけて 1 日 1 回点滴静注する。維持療法中に再発が認められた場合は、初期療法の用法・用量により再投与することができる。
スロンノン HI　10mg/2mL	**ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)II 型(発症リスクのある場合を含む)における経皮的冠インターベンション施行時の血液の凝固防止** 本剤を適当量の輸液で希釈し、通常、成人にアルガトロバン水和物として 0.1mg/kg を 3～5 分かけて静脈内投与し、術後 4 時間までアルガトロバン水和物として 6μg/kg/分を目安に静脈内持続投与する。その後抗凝固療法の継続が必要な場合は、0.7μg/kg/分に減量し静脈内持続投与する。なお、持続投与量は目安であり、適切な凝固能のモニタリングにより適宜調節する。
ワソラン静注　5mg	**（小児用量追加）** 通常、小児にはベラパミル塩酸塩として1回 0.1～0.2mg／kg（ただし、1回5mg を超えない）を、必要に応じて生理食塩水又はブドウ糖注射液で希釈し、5分以上かけて徐々に静脈内に注射する。なお、年齢、症状により適宜増減する。
ワソラン錠　40mg	**（小児適応・用量追加）** **頻脈性不整脈（心房細動・粗動、発作性上室性頻拍）** 通常、小児には、ベラパミル塩酸塩として1日3～6mg／kg（ただし、1日 240mg を超えない）を、1日3回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜減量する。
リュープリン注射用 1.88 リュープリン注射用キット 3.75	**中枢性思春期早発症の場合** 通常、4 週に 1 回リュープロレリン酢酸塩として 30μg/kg を皮下に投与する。なお、症状に応じて 180μg/kg まで増量できる
リファジンカプセル　150mg	**〈適応菌種〉** 本剤に感性の**マイコバクテリウム属** **〈適応症〉** 肺結核及びその他の結核症、**マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症を含む非結核性抗酸菌症**、ハンセン病 **［MAC 症を含む非結核性抗酸菌症］** 通常成人には、リファンピシンとして 1 回 450mg(力価)〔3 カプセル〕を 1 日 1 回毎日経口投与する。原則として朝食前空腹時投与とし、年齢、症状、体重により適宜増減するが、1 日最大量は 600mg(力価)〔4 カプセル〕を超えない。

医薬品変更通知

今回採用医薬品（採用）	従来採用医薬品（削除）
ムコダイン錠 500mg（杏林製薬）	ムコダイン錠 250mg（杏林製薬）
ベシケア OD 錠 5mg(アステラス製薬)	ベシケア錠 5mg（アステラス製薬）
ユーパン錠　0.5mg　（沢井製薬）	アズロゲン錠　0.5mg（高田製薬）
ジゴキシン錠　0.125mg「AFP」（アルフレッサ）[震災のため]	ジゴシン錠　0.125mg（中外製薬）
ジゴキシン錠 0.25mg「AFP」(アルフレッサ)[震災のため]	ジゴシン錠　0.25mg（中外製薬）
ジェノトロピンゴークイック注用 12mg（ファイザー）	ジェノトロピン TC 注用 12mg（ファイザー）

剤形追加通知

今回採用医薬品
●6 月 1 日より
セルタッチテープ 70　＜70mg/枚＞